

福島第一原子力発電所従事者の被ばく線量 の全体概況について

平成25年11月21日
東京電力株式会社



東京電力

1. 発災以降の放射線業務従事者の累積被ばく線量分布 (H23.3.11以降の累積線量)

区分(mSv)	H23.3~H25.9月		
	東電社員	協力企業	計
250超え	6	0	6
200超え~250以下	1	2	3
150超え~200以下	24	2	26
100超え~150以下	118	20	138
75超え~100以下	248	97	345
50超え~75以下	314	731	1,045
20超え~50以下	607	3,962	4,569
10超え~20以下	534	3,633	4,167
5超え~10以下	421	3,540	3,961
1超え~5以下	653	6,531	7,184
1以下	1,042	7,327	8,369
計	3,968	25,845	29,813
最大(mSv)	678.80	238.42	678.80
平均(mSv)	23.90	10.75	12.50

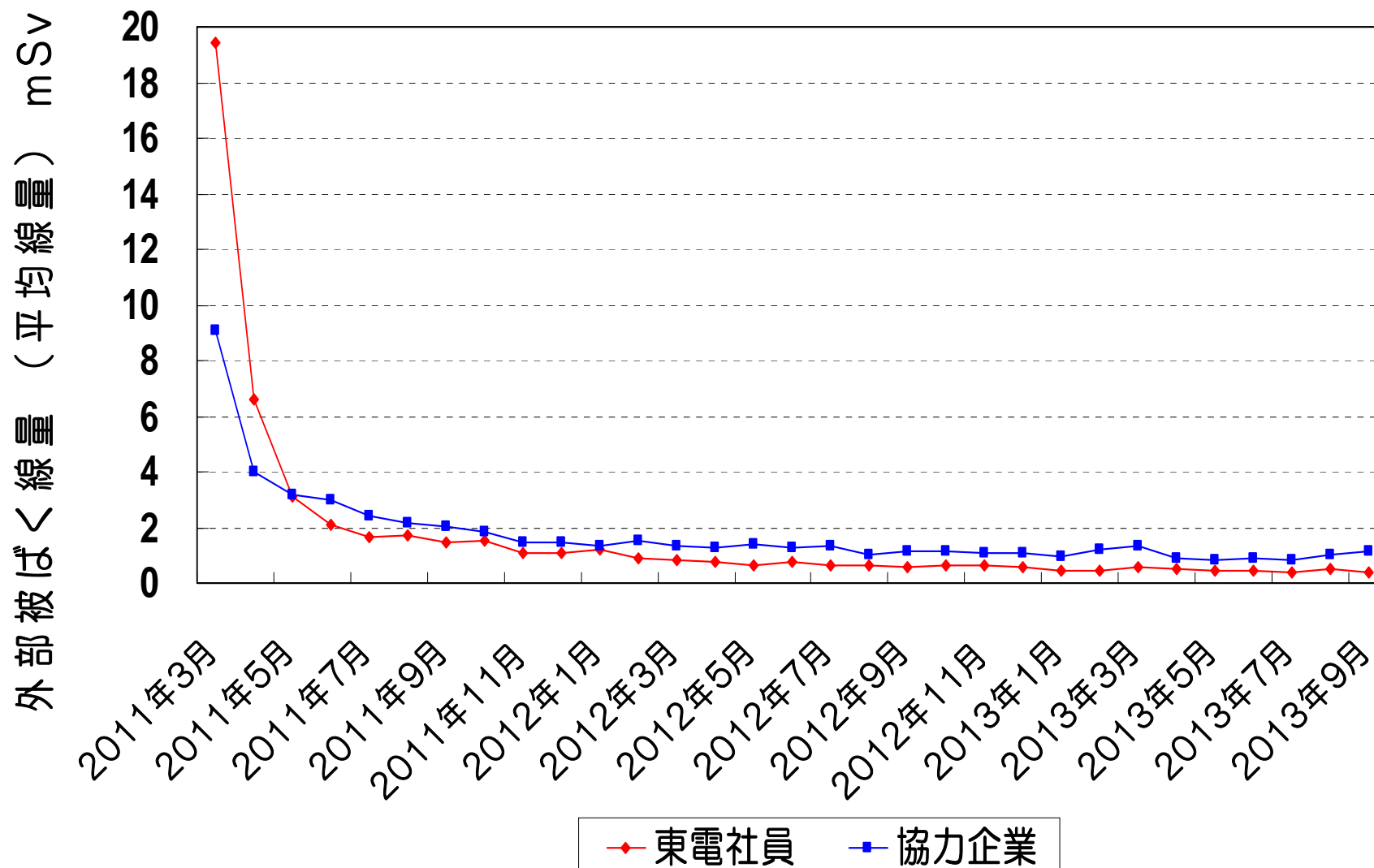
100mSv以下

50mSv以下

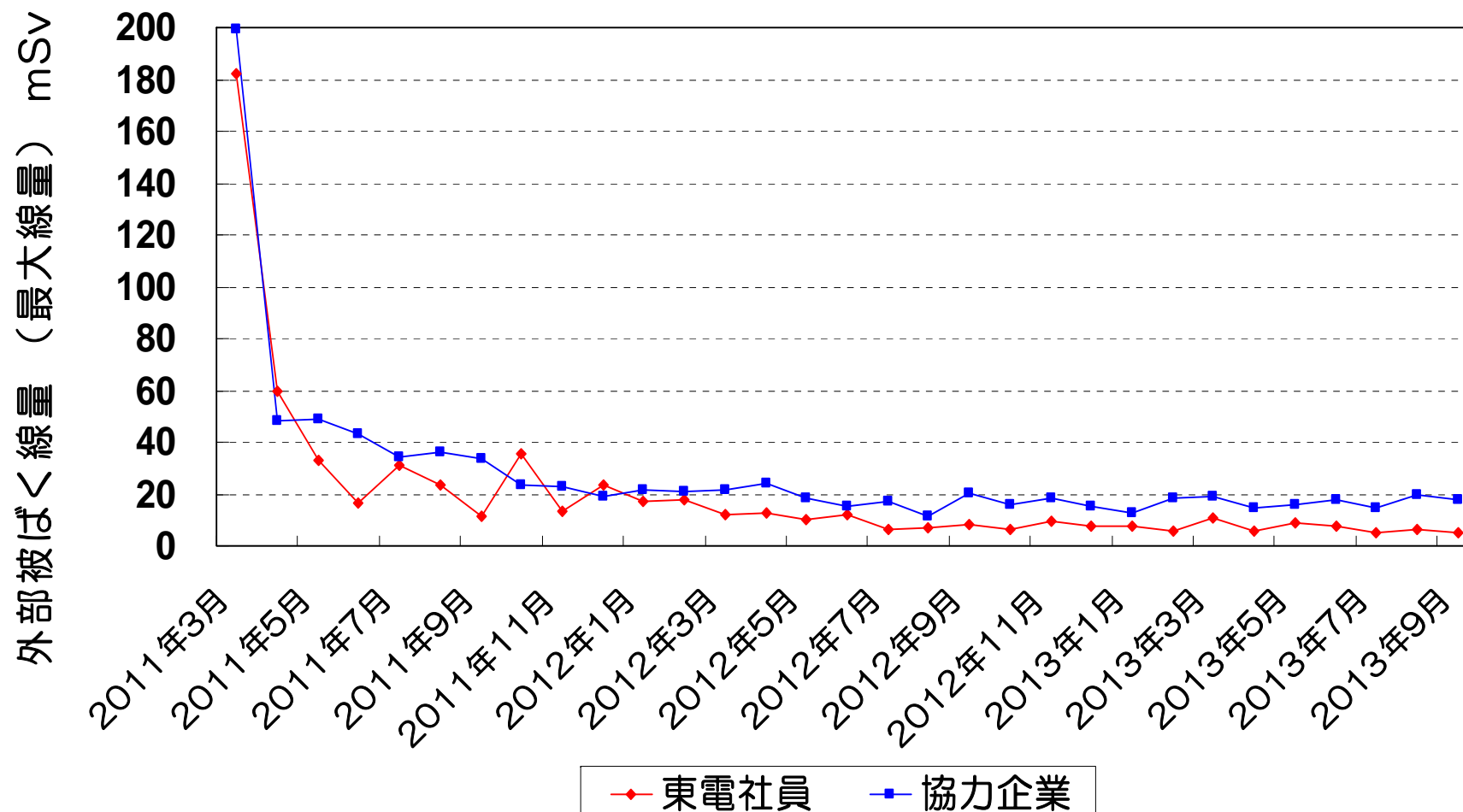
○H23.3.11からH25.9.30までの作業実績のある29,813名のうち

- ・ 29,640名 (99.4%) は発災後の累積線量が 100mSv以下
- ・ 28,250名 (94.8%) は累積線量が 50mSv以下

2. 発災以降の月別被ばく線量の低減状況（月平均線量）



3. 発災以降の月別被ばく線量の低減状況（月最大線量）



○震災直後に比べ、月平均線量・月最大線量は大幅に低下している。

4. 現在の状況 (放射線業務従事者の累積被ばく線量 H24年度分)

区分(mSv)	H24.4~H25.3月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え~100以下	0	0	0
50超え~75以下 *	1	0	1
20超え~50以下	62	567	629
10超え~20以下	129	1,778	1,907
5超え~10以下	261	1,837	2,098
1超え~5以下	578	3,274	3,852
1以下	581	4,153	4,734
計	1,612	11,609	13,221
最大(mSv)	53.97	41.45	53.97
平均(mSv)	4.46	5.44	5.32

○H24年度（4月～3月）に作業実績のある
13,221名のうち

- 13,220名（約100%）は50mSv以下
- 12,591名（95.2%）は20mSv以下
- 8,586名（64.9%）は5mSv以下



○大半の作業者の被ばく線量は線量限度に対し大きく余裕のある状態で引き続き従事可能なレベル。

*：区分（mSv）50超え～75以下の東電社員1名は、特定高線量作業従事者

4. 現在の状況

(放射線業務従事者の累積被ばく線量 H25年度分)

区分(mSv)	H25.4~H25.9月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え~100以下	0	0	0
50超え~75以下	0	0	0
20超え~50以下	3	117	120
10超え~20以下	34	665	699
5超え~10以下	94	1,193	1,287
1超え~5以下	531	2,907	3,438
1以下	776	3,845	4,621
計	1,438	8,727	10,165
最大(mSv)	25.88	39.49	39.49
平均(mSv)	1.83	3.31	3.10

○H25年度（4月～9月）に作業実績のある10,165名のうち

- ・ 10,165名（100%）は50mSv以下
- ・ 10,045名（98.8%）は20mSv以下
- ・ 8,059名（79.3%）は5mSv以下



○大半の作業者の被ばく線量は線量限度に対し大きく余裕のある状態で引き続き従事可能なレベル。

5. まとめ

- 全体的な状況から発電所の線量状況は改善してきている。
 - ・ 発災以降の作業者の被ばく状況を見ると、殆どの作業者は、100mSvに対し大きな余裕がある状況。
 - ・ H24年度、H25年度は年50mSvに対しても大きな余裕がある状況。
 - ・ H24年度、H25年度の月平均線量は約1mSvで安定している。



大半の作業者の被ばく線量は線量限度に対し大きく余裕のある状況であり、その後も放射線作業に従事が可能なレベルである。

引き続き作業環境の線量低減に取り組むと共に、作業者の被ばく状況について今後も継続して注視していきたい。